

2019.11.2 (予選) 11.3 (決勝)

日産自動車大学校

SUPER GT レースレポート

“One Team”



2019 AUTOBACS SUPER GT ROUND 8
TWIN RING MOTEGI GT 250km

レポート 日産栃木自動車大学校 学生広報

この活動は多くのスポンサー様に支えられています。



予選

11月2日（土）

天気：晴れ 気温：17℃ 路面状況：ドライ

練習走行で5位というタイムが伸びないなかで始まった予選で、Q1.サッシャ選手が1'47.027というタイムを出した。続くQ2.平峰選手は計測4周目で1'46.033という従来の記録タイムに迫る勢いでタイムを記録したが、720号車が記録タイムを更新した為、惜しくも0.126秒差で2位となった。



予選結果

Pos.	No.	Machine	Q2Time	Q1Time
1	720	McLaren720S	1'45.907	1'46.939
2	56	REALIZE 日産自動車大学校 GT-R	1'46.033	1'47.027
3	65	LEON PYRAMID AMG	1'46.036	1'46.669
4	11	GAINER TANAX GT-R	1'46.166	1'46.601
5	55	ARTA NSX GT3	1'46.304	1'47.157

決勝

11月3日（日）

天気：曇り 気温：18度 路面状況：ドライ



決勝当日、レース前は雨が降ると予想されていたが、降らずにそのまま決勝を迎えた。

ファーストドライバー平峰選手は二番手スタートで好調な走りを見せ順位を落とすことなく走り、7周目90度コーナーでインを差して720号車を抜かしトップへ。20周目にピット

トインシサッサ選手へとドライバー交代した。65号車がタイヤ無交換でコースインしトップになるがメカニック達の素早いピット作業により56号車は二番手でコースイン。

順調に周回を重ねていた56号車だったが、33周目マシントラブルによりバックストレート入口でエンジンが止まってしまいピット内が騒然とした。再び走行を開始できたが、5位に順位をさげる。その後96号車に抜かれ、49周を走り6位でチェッカーを受けてレースを終えた。

決勝結果

Pos.	No.	Machine	Total Time	Diff
1	11	GAINER TANAX GT-R	1:32'19.435	
2	65	LEON PYRAMID AMG	1:32'24.122	4.677
3	96	K-tunes RC F GT3	1:32'32.919	13.484
:	:	:	:	:
6	56	REALIZE 日産自動車大学校 GT-R	1:32'52.755	33.320

ドライバーインタビュー

Q.予選の走行を終えてツインリンクもてぎを走る上で気を付けていたことはありますか。

サッシャ選手: チームとドライバーのコンビネーション力が非常に重要。

もてぎのコースのレイアウトとしてはコーナーが多い為ブレーキング力が必要。コーナーの出口をいかに綺麗に脱出できるかという事にもかかっている。

平峰選手: スタッフの方とのコミュニケーションを取り、しっかりと話し合いをする。もてぎは、やはりブレーキに厳しいコースなので千分の一秒の為にブレーキの精度を出したい。

Q.KONDO RACING の GT300 参戦一年目の決勝戦を迎えています、今シーズン全体を通していかがでしたか。

サッシャ選手: 自分にとって新しい事がたくさんあった。自分には SUPER GT の経験は無いが平峰選手にはあるため、お互いの不足しているところを助け合ってやっていきたい。

平峰選手: S 耐の頃から三年間皆さんと一緒にやってきたが、SUPER GT のメンバーに関しては知っている人もいるが初めての人が多かった。時間は限られていて、その限られた時間の中でしっかりと準備を進めていきたい。

Q.決勝戦への意気込みを教えてください。

サッシャ選手: 明日は雨予報なので雨が降らないことを祈りたい。

口で言うのは簡単だが明日が初めての優勝になるようにしたい。

平峰選手: 明日は2番手スタートになるので優勝を取りに行きたい。

優勝とかシリーズチャンピオンは舞い降りてくるものだと思うので、チャンスが来たらベストを尽くしてチーム全体で戦っていきたい。



監督インタビュー

Q,SUPER GT 参戦一年目にしては物凄い出来とおっしゃられていましたが、決勝への意気込みを教えてください。

もう、勝つしかない。レースは大げさに言うと1位以外は一緒だと考えているので、予選結果2位は非常に悔しい。他チームでは2、3位で喜ぶチームもいるが、2位では喜んではいけない。決勝は絶対勝てるように全力を尽くす。

Q,学生は作業の効率や先を読む事が不十分だと感じているようですが、近藤監督から見た学生はどのように感じますか。

不十分だと感じるのはすごく良いこと。本当に不十分だから。それは仕方ないこと。学生と同じ年代頃の現場メカニック達と比べると、今の日産自動車大学の生徒はハキハキしてるし、不十分だと自分達でわかっている点を自己分析できているのはすごく大人で、こういった現場に来てプロのメカニックを見て、自分たちに足りないのはここだなと学ぶことも、このプロジェクトの目的でもある。不十分だからといって自信を無くさず、そこに気付いている事がすごく素晴らしい。

Q,近藤監督はチャレンジすることが大切だとおっしゃられていましたが、来シーズンはどんなチャレンジをしたいですか。

GT300、GT500、スーパーフォーミュラ、ニュル24時間の全体のレベルを今よりも引き上げる。もちろん一番分かりやすいのは成績。成績を引き上げるということは人を入れ替えたり会社でいう人事的なこともやらなければいけない。近藤レーシング全体のチームとしてのレベルアップ=成績アップ。これが来年のチャレンジ。



学長インタビュー

Q.今シーズン全体を通して印象に残ったことはありますか。

レースを見るのがまず初めてで何を見ても新鮮に見えた。

その中でレースは、みんなの力で成り立っていると感じそれが印象に残った。

Q.学生の様子はどうでしたか。

最初は動きが固まったりしていたが、日を追うごとに学生の動きが良くなってきた。

学生が「明日はこうしよう」と意見を出し合ったりしていて凄く良かった。

感想

勝つことを期待していたが勝負の世界はなかなか難しい。みんなにとって良い学びだった。

一つの要因で何かが変わってしまい、それが結果に繋がってしまう。来シーズンはその結果をもとに、より良いものにしていきたい。



T/S との顔合わせ

今回も、日産の販売会社の T/S の方々と学生で、意見交換を予選前日に行いました。

活動する上で学生と T/S 間で意思疎通を取り、実際に作業をする時に分からないことをすぐに聴けたりしてお互いにコミュニケーションを取りながら円滑に進められるようになりました。



学生活動

テクニカル部門

学生が10班に分かれて時間帯別でピットに入り、タイヤ・ホイールの掃除や交換、車両の清掃、車両移動、アライメント調整の手伝い、ピットワークの手伝いを行いました。普段見ることのできないSUPER GTの車両を間近で見て、スタッフの一員として作業する事ができる喜び、レースならではの緊張感を実感しながらレースという現場の厳しさを学びました。



マネジメント部門

スポンサー企業様などへのお弁当やお飲物を提供するお客様対応を行いました。お客様への接客を行う中で、周囲を見て行動する力やコミュニケーション力などを学びました。またスタッフ同士でミーティングを行い改善点を見つけ、より良い接客を行える努力をしました。



ピットマネージャー部門

ドライバーの身の回りのお手伝いやドリンクの準備、サイン会のお手伝いなどのドライバーのサポートを行いました。



学生インタビュー 参加してみての感想

一年 平塚 俊輔（初参加 テクニカル・マネジメント）
レースが好きで SUPER GT をよく観戦しており、チームの一員として活動し学校では学べない知識や技術、レースの現場を学びたくて学生スタッフに参加しました。 チームメカニックや販売会社の T/S の方々の動きに無駄がないと感じ、今回この活動をやってみてコミュニケーション力がいかに大切であり、これからも求められる要素である事を実感しました。



二年 松嶋 友哉（初参加 ピットマネージャー）
専門学校に入学する前まではレースを見たことがなかったが、一年生のときにスーパー耐久を観戦し学生スタッフの活動を見て、次回やってみたいと思い参加しました。
ドライバーのサポートというあまり経験できない貴重なお仕事なので不安もありましたが、KONDO RACING のスタッフやドライバーの御二方がとても優しく接してくださったので、とても楽しかったです。



三年 皿谷 遥平（2回目 テクニカル・マネジメント）
ピット内の緊迫した雰囲気は圧巻でした。テクニカルとしての仕事はこなせました。チームメカニックの方、T/S の方とのコミュニケーションを上手にとることが最も重要だと感じました。今回班リーダーとして班をまとめる立場でしたが、メカニックの方や総リーダーからの指示や注意点などを分かりやすく、できるだけ早く展開することに少し苦労したので、来年はこの経験を生かして改善していきたいです。



四年 佐々木 厚 (7回目 総リーダー)

今シーズンから SUPER GT に変わり総リーダーを任せて頂いて、かなり緊張しました。

S 耐に比べたら観客や、まとめる学生の人数や仕事量などの規模が大きく、これらの動きを把握する事が難しかったです。参加学生の意識が高く唐突に仕事を振っても嫌な顔せず素早くこなしてくれました。まとまりがよく KONDO RACING の河野さんが仰っていた “One Team” としてよく動けていたと思います。



広報

学生広報は活動場所の確保が難しかった為、e-NV200 を使って広報活動をしました。

電気自動車を使っでの広報活動は初めてで、最初は苦勞しました。通常の部屋と比べると手狭ですが、それでも電源が取れ、ヘッドクリアランスが取れて作業が滞りなく進めることができました。最終戦ということもあり、物凄い盛り上がりを見せた中でこのような広報活動をやらせていただいた事をスポンサーの皆様や KONDO RACING スタッフの皆様、先生方のおかげで良いものとなりました。



広報

中村 潤也
藤井 敦也
福田 泰基
成田 颯
宮崎 汰一